夕刊
十一月二十四日發行
磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇・五六五八番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩 北の風曇
明日 北の風晴たり曇り

童話 夜汽車
大塚恭子

ごとんと汽車はとまりました。熱氣で曇つた窓硝子に額をくつゝけて外を見てゐた正雄は『來た、來た』と思はず小さく云ひました。驛名を呼ぶ聲が、窓の外を通つて行くのが遠くに、まるで夢で聞いてゐる樣に通り過ぎました。眞夜中のプラットホームはひつそりして驛の窓から荷物を降しながらン／＼引、ゆ、のと、ご二人のお客さんが乘り降りする音がひく／＼とし、アふと、驛長さんがカンテラを振廻すのを合圖に、ゴトン／＼と又汽車が動き出しました。

正雄が立ち上つて窓を開けると涼しい風が頭をなでつゝゆきました『此處が大きな大切な飛行場のある所だ』正雄は伸び上る樣にし、驛から近い所かな、それともずつと遠くかしら、などと思ひながら驛の向ふにお酒や何處かの店の廣告の灯などが二つ三つ輝いてゐるあたりを見ました。汽車が普通の速さになつて再び田圃の闇を通り出したので入り込む冷たい風に、向ひの席に寢てゐる他所のおぢさんが眼を覺ますかも知れない。と思つて正雄は窓を閉め又坐りなほしてあたりを見ますと、今乘つて來たらしい一人の海軍さんが空いた席を探してゐました。大抵お客さん達は眠つてゐて空いた所がなく、中には二人分の席を取つて長くなつて寢てゐる人があるけれど起すのは氣の毒なのでせう、海軍さんは出入口の所へ出て行つて、風に吹かれながら外を眺めてゐました。正雄は氣の毒になりました。自分の席の所へ誰も坐らない樣に荷物を置くと、出入口の所へ行つて

『おぢさん！』

どき／＼しながら云ひました。

『おぢさん、飛行場から來たの？』

海軍さんは正雄の突然の問ひに目をぱちくりさせました。

『うん、そうだよ。どうして？』

『だつて彼處には大きな飛行場があるのでせう―そして、おぢさんは兵曹長でせう？』

腕章を見て正雄は云ひました。

『おやよく知つてゐるんだね。坊やこの近くの子かい？』

『うゝん、僕大阪。前にね僕の家に來て泊つた飛行機の兵隊さんが彼處からよく手紙を呉れるから知つてるの。僕も大きくなつたらおぢさんみたいに、海の荒鷲になるんだ』

正雄が一生懸命になつて云ふのを、海軍さんはにこ／＼笑つて聞いてゐました。

白衣の勇士へ送る
川口千香枝

○みいくさの傷をやしなふおきふしやわがますらをのやすらかにこそ
○みいくさにたてを負ひし君たちよとくすこやかの身になりたまへ
○後世までも君らの武勳傳ふべし皇國のいくさに傷づきたまふ
○みいくさのますらを思へばをみならのいかほどのことも堪へむと思ふ
○みいくさのながくつづかむをみならのさらに心はひきしめむもの

昭和十年十月廿八日、わが主鈴木縮山氏川崎にて遭難、幽冥境を異にすること五年
鵜沼孝昌

○主逝きて五年は早過ぎにけりかなしくも今日の紅葉散る日に

過矢祭山
珠雲 小野務平

矢祭連峰紫翠新
千尋飛瀑下隣旬
長風峭壁壯心骨
我是謫仙詩曩人

11月25日
△公卿官女の美服を禁ず（長保三）△カーネギー生る（一、八三七）△日獨文化協定調印（昭和一三）

その日／＼
○
山茶花や朝寢の床の寒し　喜一郎

講談 振袖横町（ふりそでよこちやう）
（44） 須藤鐘一 荻原萬象畫

當時の事件（一）

五代將軍綱吉のかうした遊びに耽けるやうになつたのも、柳澤の權謀が働いてゐたのである。

右馬頭綱吉卿は五代の將軍に備り給ひ天下を知し召されければ、御母堂桂昌院には天下の御母公故三之丸に移り世に三の丸樣と稱された。

その御弟本庄次郎左衛門は天下の御叔父なれば、御取立ある可きとの上意あるに柳澤進み出で申上げるには、餘の儀と違ひ御間柄の事なれ、諸公のおもはく、三の丸樣の御威勢もあれば、五萬石を下され候上城主の位に据ゑられて然る可しと言上した。

次郎左衛門は、これ柳澤の勢威によるなりと非常に喜んだ。

牧野備後も二萬石の御加増あつて、都合七萬石になり御側御用人仰付けられる松平右京太夫は一萬石御増加ありて四萬二千石となり同じく御側御用人仰付けられ、松平右京太夫は一萬石御加増ありて三萬三千石になり若年寄、加藤佐渡守は五千石御増加にて二萬五千石となつた。

此の時の御老中は大久保加賀城守阿部豐後守戸田山城守であつた。

柳澤彌太郎は三千石を賜り、御側役仰付ら、柳澤美濃守と立身したが未だ大名の列には入らない。これと晝夜御側を離れず何事も御談合あつたので、諸役人も柳澤には一目も二目も置いてゐた。

柳澤はその外館林當時勤仕した御小姓喜多見五郎左衛門、三間右近、須賀金彌黒田三九郎、八木主税等を始め御加恩を賜り、桂昌院の御由緒、森彦右衛門、堀八郎右衛門、木下清兵衛、また、御局岡本お柳の方等の所縁迄召出され御旗本へ取立てられ夫々立身しける輩、算ふるに遑のない程である。

その輩は、皆柳澤が執成故と評判し、美濃守は器量人なりと、皆これに取入らんとするので その進物は毎日山をなすと云ふ有樣。

かうなると、他の者も何かして美濃守を出世させたいものと、皆で執成す。綱吉もお氣に入りの者のことなればと思つてゐる所へ又桂昌院からの執成もあつたので意を決して美濃守をお側用人を仰せ付けられ、神田橋内にお屋敷を賜はつた。

美濃守の權勢は、飛ぶ鳥を落すと言つた有樣、然し我身を愼み、謙り、假にも無禮の体なく忠實を表としければ彌々諸人は感賞し止まなかつた。

又、美濃守は將軍家に牧野、本庄へ御錢を進め。これは畢竟、自分の方へ招請し奉らんと、謀計である。果して柳澤方へも御成ある可きお沙汰があつた。

美濃守は、それを數度辭退したのである。間を取繕はんための方便であつたが再三の仰せに是非なく、御請申し上げた態に取拵へ扱 當日となる……。

最後は、御微行での御成の豫定であつたが、浪人共の襲撃の噂などがあつたので、公式にお成りとなつたのである。

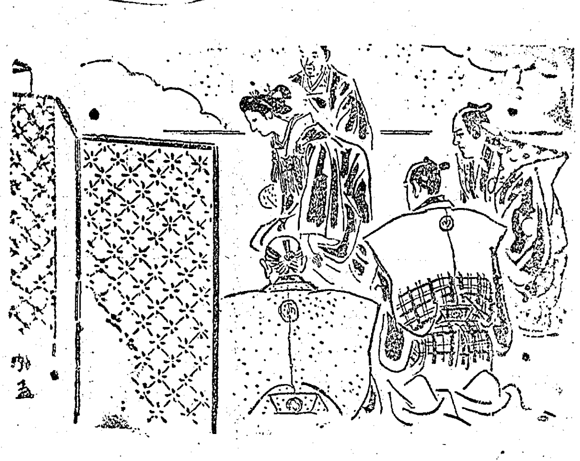
公式の御成なれば、浪人共が如何ともなし難いからである。

將軍家も、御心中樂しく思召されて、柳澤が屋敷神田橋へと、行列が進んで行く。

美濃守方にては、新に御殿を出來、總金張付の上段へと招じ奉る

珍味佳肴を將軍家に差上げる。

そのみならず、御供の輩き面々まで、町中に取なし、殘る所なく充分な馳走をした。その用意、諸人は皆吃驚した。



男女 車掌募集（三名）
1、年齡十六才ヨリ十九才マデ
2、未經驗者ニテモ可
3、給料其他ハ委細面談
合名會社 平四倉乘合自働車
平四丁目 電五九四

手續簡易 利息低廉
庶民金庫の資金を御利用下さい
信用組合平庶民金庫内
庶民金庫平代理所

晝夜 診療
外科一般 内臓外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
日曜祭日急診每日 ○入院隨時
平市新川町〔電四六四〕
醫學博士 北川芳夫

御婚禮御支度
衣裳、かつらの便もあります
和洋結髪
パーマネント。ウエーブ
美容一切 御用命の程を願ひます
平市新田町
手塚美容院

廣告
特約店
白梅便箋 忠孝便箋 文鳥便箋 菊日本便箋
香取封筒 住吉封筒 東亞封筒 松竹梅封筒
魁文堂 電話313番

室内用竹レール 創始
高尚優美 無音低廉 防中防腐製品
國華竹レール
一番美レイ一番打付ケヨイ音セヌ
實用 第二一四二八八號
新案 一九三六四七
京都府園部町
國華竹レール 第一工場
仝綾部 仝第二工場
仝宮津町 仝第三工場
東北六縣一手特約店
合資會社 平銅鐵機械商會
KS 代表者 井尻七三郎
國華竹レール部
一縣一市御特約店ヲ契約
一縣一町一村ニ小賣店特約店ヲ望ム
詳細ハ拙社御照會ニヨリ社員見本持參
御相談ニ可應候

酒ハ白菊
酒之王 君德 クントク
秋田・伊藤本家吟醸
特約店 平市田町 白菊廣瀨支店 電話五四番

醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

◇住宅地分讓◇
都心に近き保健境
平第三小學校東北方約二萬坪
金より物の時代
「安全の土地」
支那事變前では、投資家の投資物は種々雜多で、その向き向きに依つて、投資せられたものでありますが、事變の進行と共に各方面に於ける統制の强化は、全く自由に各方面への投資が抑制せらるゝことゝなりました。その間に在つて殘されたる安全堅實にして、而かも至極有利なる投資としては、先づ第一に土地を擧げねばなりません。殊に最近に於ける跛行的景氣に依るインフレ傾向は、全國的土地投資熱が第一位と云つても過言ではないのであります。蓋し經濟界に於ける統制は、物價の抑制を招來してゐますが、獨り土地の價格には統制がなく、而かも遊資家の放出先に困つた投資が、期せずして土地に向つて來るのは、當然の歸結とも云ふべきであり、更に一面に於いて、事變終結に想を致すとき戰勝インフレの幕が切つて落さるゝことゝなれば、産業界の殷盛と共に土地價の昂騰は期して待つべきものでありと存ぜられます。從つて古來土地に投資した者には、殆んど全部が數倍の利益こそ見れ、決して損失はないと云はれてゐるのも、宜なる哉と思はれるのであります。
大小各口の御相談に應ず
御希望の方は市内田町一九蓮沼方（電話七八七番）へ御問合せ下さい

日歸りの豊漁に賑ふ
一隻二萬圓から四萬圓の鰯景氣
有卦に在る四倉の昨今

近來四倉の鰯漁船は北方漁場に於て極めて活潑な躍動を續けてゐる。即ち投網七統、この所屬船各四隻合計二十八隻が奥羽六縣から狩り集められた一統當り各七八十名の從業員を乘せ少きも二萬圓多きは四萬圓の漁獲をなし、連日凱歌歸港しつつあるが、昨今漸く漁場が近海に南下して來たので今後は日歸りの豊漁に湧くが如き景氣を續けるものと觀られて居る。

因に斯の樣な大漁の折には海上の活動に追はれ町の一杯屋などは極めてヒツソリ閑として時化や不漁の時は却つて待機の漁夫により相當の繁昌を見せるとは漁ならでは見られぬ皮肉な現象であると

傷痍奉公杖
市から二氏へ傳達

今次事變で戰場、足の不自由になつた傷痍軍人に對する陸軍大臣から『傷痍奉公杖』が贈られたので市では二十四日午後一時から市內長橋町關角部隊一等兵松本與三郎　南町牧野部隊一等兵金諸實兩氏に傳達した

各父兄熱の會合
第一校で受驗對策懇談

入學考査制度の改正第一次に處する第一小學校の中等學校受驗生父兄會は既報の通り一昨二十二日午後一時から開催したが之亦該當兒童を有する淺水磐中、正木磐女兩縣立校長をはじめ阿部政右衛門、山崎忠兵衛、佐々木磐中父兄會長、豊口磐中教諭其他殆ど全數の知識階級百五十餘名が出席、篠田校長から種々新制度に關する說明あり殊に各自の體格が考査上校長の報告と同價値に重視さるゝ旨の一項に就ては同校現在の運動器具施設が之に對應すべく遺憾無きや、場合によつては父兄が醵金してその完全を期し度いなど子弟當面の難關突破上大に熱意を披瀝する處あり各受持教員との懇談等に時を移し、薄暮に及んでこの有意義な會合を終つた

平均六十車增送
活潑な最近炭况

事變下に於ける當局の激勵と當該各社の自奮から昨今の石炭增産は、事情の許す最大限の公休廢止から觀てもその反映の顯著なものあるべき旨既報の如くであるが、果せるかな去る十一日以降二十日迄の常磐各山元發送統計によると

事業用四、八八二車六一一〇九瓲、鐵道用一、四八八車一九、一五〇瓲合計六、六三五車八六、一二七瓲

で前年同期を凌ぐこと實に事業用二六五車、五、八六八瓲　鐵道用三二一車二、三六五瓲　合計五八六車八、二三三瓲の增加で上中旬を通算すると前年に較べ千二百七十二車一萬六千五百十八瓲を增してゐる

磐訓同窓會
昨記念日に開催

毎年新嘗祭當日の創設記念日に開催さるゝ市內磐城訓盲院の恒例同窓會は昨二十三日午前九時から開催、桐原菩提院住職により物故會員の追悼會を執行、了つて

……協議懇談の上午後三時散會したが、出席三十餘名、遠く北海道をはじめ、田村、茨城縣多賀郡方面から迄無明の世界に活躍する會員が出席盛會であつた

豊間警防團檢閲

豊間村警防團では二十五日午前十時から小學校で秋季檢閲を行ふ、柴田平署長臨席

豫想五千石增收は
一に澤村公のお蔭
明年は盛大に謝恩祭

小川江筋組合では同江筋開鑿の恩人澤村勝爲公逝いて二百六十年の今日漸く水路改修も成り小川、赤井、平、神谷、草野、大浦、大野、四倉の關係耕地千二百三十四町歩はお蔭で昨年より五千石增收の三萬五千石を豫想されてゐるので組合では平窪議員の提唱により二千九百の組合員のうち五反歩以上のものから白米一升當りの喜捨を受け明年七月十四日市內上平窪字横山の公の墓前で行はれる例大祭はその恩惠に浴す灌漑民の『謝恩祭』として盛大に催すべく計畫してゐる

既に二回献金
日曹小田で豚飼育

かつての左翼鬪士市村政治君が中心となつてゐる日曹好間小田鑛業所豚飼育會では各方面の援助により最初七頭を飼育させうち二頭を賣つて十五圓を献金、其後殘る五頭賣却代百六十二圓八十六錢のうち仔豚代、雜費等を除いて金十圓を國婦小田分會へ寄附、現在豚五頭と兎八羽を飼ひ献金を續けやうと意氣込んでゐる

特別補給金も
結局燒石に水か？
遣繰り算段の市財政

既報、市の今年度分特別戸數割は折角一般補給金が交付されながら各種稅の改正に伴ふ歲入欠陷補塡に充當された結果結局表面は燒石に水のかたちとなりその緩和策として愈よ近く交付される特別補給金をどう使ひ分けるかが注視されてゐる相當のびらきにより差當り解決の見込み立たぬ鎌田遊廓敷地代一萬八千圓や軍人遺家族の稅減免による歩入欠陷等に廻され結局この分も市民の懷ろには影響を來さないかと見られゐる

時局に廣まる世帶
各部署の機能發揮上
柴田署長さん大頭痛

所屬警官八十餘名と云ふ大數に於ては縣下隨一の平署では、元石城郡役所の尨大な建物を襲用し乍ら、司法、行政各方面に對する滿幅の機能を發揮する上に於て、尙は若干の狹隘を感ずる場合無きに非る處へ、此程半島同胞の擔任者並に歷報經濟警察官の增配に因る署員の激增から遙かに署內人件の輻湊を來し、その執務部署に就て考慮を要することゝなり、この當面の處理に關し、當の柴田署長は昨二十三日の旗日を廢し各係と協議し此際の善所を誤らぬ樣對策するなど大張り切りを見せてゐる

英靈二柱原隊へ

市內紺屋町步兵一等兵久田春美、荷路夫村步兵伍長綠川寬也兩君外戰歿九勇士の英靈は二十八日上海出發、來月上旬原隊に聲なき凱旋をなす

子供を連れ家出

双葉郡龍田村井出日雇業松本松吉さんは同郡廣野村折木農鈴木宇吉さん二男三郎君(三)を養子に貰つたが妻に相談しなかつたため最近入籍問題で揉めたのに氣を腐らし三郎君を連れて家出したが地方の炭礦で働いてゐるらしいからと三郎君の實母鈴木うんさんから平署へ搜索方を願ひ出た

お金にして二千餘圓
毛織物廢品賣上げ

地方女子青年、愛婦分會では日本羊毛普及會提唱の羊毛資源確保、反毛報國運動に呼應し過般來各家庭から毛織物の廢品を募つてゐたが纏つたので昨二十三日平、植田、小名濱の三ヶ所で普及會係員が來平の上買渡しは平市持寄りの分は左の如く合計七百二十四貫で一貫匁平均三圓と見て實に二千圓を突破する

內鄕一〇六、夏井一九、好間五七、赤井二八、久の濱二四、高久二八、四倉二四、飯野八、大浦二〇、草野二二、大野一一、三阪一六、箕輪八、永戶五、神谷五、小川二三、大久一三、平二〇二、三〇〇、湯本一〇二

投書歡迎　投檜

城山生君に物申す。。。。。

◇寫友會展に對する『城山生』の記事を讀み其の餘にも寫眞に對する知識の薄い事に感服した。苟もあれを起草してあれだけでは一寸心細いと思ふ。昨年よりレベルが下つた事は誰も認める處だが、K氏やM氏の作を評すに到つては正に噴飯物と云はねばなるまい。城山生は果して寫眞をおやりでせうか。初心者にも、必せねばならぬ事は燒附の色調でせうね。

◇K氏の作品は遺憾乍ら、色調が惡かつた。是にお氣付ですか。又、藝術寫眞を見るには構圖の事も大いに考へて戴かねばなりません、工場所見は綺麗な繪だつた、だけでは未だ〳〵の觀ありですね。右の方た立つて居た黑い人物は、果して働いて居たでせうか、此の繪には無くてもいゝ人物なので無いでせうかね此れでもあの火の中へ、鐵棒でも入れて居る處とか何かしら動きある人物だつたら別問題ですがね。

◇雲だけが良くつても駄目ですわね『飯豊山にて』よりはやはり雪の方が此の作家の優秀作ですね。札を澤山下げて、點が甘い事は衆目の認める處ですよ、併しあの位にして迄作品の指導を心掛けてる審査員の心を察して上げては如何でせう。餘裕の無い繪が多いのはまとめ過ぎてるのかも知れません。

◇併し繪書とは異つて色の無い寫眞には此のまとめる事が、實は必要な事ではないですか。誰しも出品出來る寫友展です。一度出品しては如何でせうか、大いに研究して、傑作を作つて見て下さい。一度で金賞を獲る等は恐らく想像も許さぬ事でせう。

◇兎に角レベルは下つても、下らない作品が無くなつた事は大いに賞すべき事でせうね。聞けば今年は東日の觀光寫眞に忙殺されたとの事ですよ。秋の觀光寫眞の發表こそ、寫友會員の腕を知る事では無いでせうか。

(T　生)

時代の脚光を浴び
中央の檜舞台に躍る
在京鄕黨の横顏

〔G〕

磐中騷動後日譚

◇三教諭に慷焉

津輕の殿樣類橋教諭と、音樂學校の奏任教授絢子女史の夫君たる神戶工學士と之亦文學士の肩書を有する町田教諭とに依て遺憾無く縱橫斷された磐中創始時代の英語科は、少くとも向學心に燃ゆる揚土學徒をしてより多く新智識を滿喫せしむるに充分なるものがあつた筈なるに拘らず、或は歸朝早々のバタ臭いのが鼻についたものか、それとも教授振りに思はしくない點があつたものか何れにせよ前記三教諭に慷焉たる氣分が受驗準備の關係から特に此科に重點を置かねばならぬ四年生間に漲つて之の間の不滿を三教諭の推挽者たる植竹校長によつて解決せんとする機運が醸成された。

◇山雨將臻風滿樓

何等の掛け引きを交へざる猪突猛進的の運動は遂然として開始された。明治三十五年の暮から三十六年の初頭へかけて、殺氣立つた四年生が肩を聳かして校の内外を濶歩する有樣は、スワ何事の危機を孕むものかと、少からず氣の弱い下級生を競々させたが、山雨臻らんとして風樓に滿つ底の不氣味な豫感は、竟に事實化されて一日突如『三年生以下は歸れ!』なる破れ鐘のやうな命令は、當時荒神樣の如く怖れられてゐた四年生によつて發せられた。

◇空氣は愈々物騷

揚土台上うしとらの方角に妖雲漂ひ――もチト大袈裟だが。一陣の殺氣は颯として全校に磅礴した。

――四年生の人らが先生を一人殘らずぶん毆つちまうんだと……

なんて物騷な流言蜚語は在所に行はれた。事の內容は解らぬにせよ今となつては什うしても何事が捲き起らずには濟まぬ必至の勢となつた。

◇至誠寮の謀議!

之より先き四年生の謀議は時の寄宿舍たる紺屋町の至誠寮(前草野順平氏宅)に於て、當寮をヘゲモニつてゐた組長藤井暢七郎君(湯本町水野谷出身藤井東京市學務局長令弟現北海道炭礦汽船會社技師工學士)を中心に、之赤獨身住ひで寮の飯を食つて居た軍人上りの體操教師である吉田龍郎(故)なんて荒武者を參謀格として練り上げられ、差し當り藤井氏が指導統制者吉田先生が有力なシンパと云ふ處であつた。

◇通學生も相呼應

一方寄宿生と相呼應して通學生の間にも謀議は夫々進められ、當時田邊斧松君(新潟縣人台灣協會卒業、朝鮮慶尙南道進水金融組合理事)が下宿してゐた一丁目の十一屋洋品店の土藏などへはバットのやうなステツキをついた弊衣破帽の鬪將が續々と集つた。斯くして寄宿生通學生間に於ける對校長策戰のオルガニゼーションは完全に造り上げられた。然らば當時の地元通學生とは什麽顏ぶれであつたか?

お歲暮の贈答廢止
師走の經濟強調週間行事

市では來月の經濟強調週間中縣からの左記指示事項を徹底させる

△農閑期利用の生産擴充

△七分搗米の常用混食代用食の勵行

△薪炭電力瓦斯の節約

△金貨、金地、金製品政府への賣却

△家庭內の整頓、廢品利用又は賣却

△納稅の完納負債償還

△冠婚葬祭の簡易化、忘年會歲暮の贈答廢止

△年末賞與等による國債購入

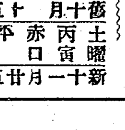
△買溜買惜み闇取引嚴禁

△消費抑制、貯蓄增加

平市慶弔錄

△出生　四軒町二二町田龜治氏三女明子さん、本籍北目町一一東京市中野區大和町一三〇清水久一郎氏三男秀一君

▲死亡　新川町八長ハルイさん(三九)、本籍鷹匠町一〇東京市城東區龜戶町一丁目七四清氏二女小野悅子さん(五)



舊十月十五日　土曜　丙寅　赤口　平　胃宿　新十一月廿五日

▲一白　そろ〳〵目上の引立の生じ來るべき吉日▲二黑　思はざる引立に逢ふことあり但口舌は注意▲三碧　早呑込みするときは意外の失敗を招くべし▲四綠　重心を失ひたるかつ車の如く脫線しやすき日▲五黃　驕りを戒め人言を容れば吉日たるべし▲六白　目上よりもほうばいよりも皆好感を以て迎らる▲七赤　幸福の人より不運の人を見て自省すべし▲八白　陰闇のなきより陽明の地に出でし心地する日▲九紫　人の事にて迷惑失費多し世話事は注意せよ

二十五日【小名濱側候所觀測】　滿潮　前一、五〇　後一、〇五　干潮　前七、三〇　後八、一五

廣告

平市驛前　旅館　とらや　電話六四八番

田毎の　志るこ　ぞうに　電話六三二番

酒トマヅイ　たでんの　榮ちやん　平市田町花ノ里　電話三三番

二十二日失火の際は早速御駈附消火に御盡力被下御蔭樣にて大事に不至鎭火致し候段難有存じ申上候就ては拜趨御禮可申上の處混雜中御尊名伺ひ洩れも可有之乍略儀以紙上御厚禮申上候　敬白
十一月廿四日
平市驛前　甲陽館　電話一四八番

夜間診療
胃腸性病　專門
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
(見習看護婦募集)
松村胃腸性病科醫院　(平市南町電一〇七番)

產婦人科　井坂醫院　平市田町　電五五九
見習看護婦入用

耳鼻咽喉科專門　レントゲン科
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
平驛前　電三三六

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
株式會社關彰商店平支店　福島縣平市一丁目(電話六十一番)
本店　茨城縣下館町　電話五五、三三九番
支店　茨城縣土浦町田宿　電話六五三番
茨城縣久慈町　電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前　(電大津一四七番)
福島縣四倉驛前　(電平潟五四番)
福島縣小名濱町　電話四八番
油槽所(常磐線泉驛前)
海岸給油所(大津港、平潟港、江名濱)
ガソリン給油所(土浦町新國道日本石油給油所　電話八二四番)